

不動明王像

【所在地】鹿児島市南林寺町 23 - 22 南洲寺

【種別】県指定有形文化財（彫刻）

【指定年月日】昭和 30 年 1 月 14 日



もと鹿児島郡伊敷村（現鹿児島市伊敷町）の不動堂にあったもの。明治の初めの廃仏毀釈のとき、不動堂から持ち去られ、その後南洲寺に移された。現在、南洲寺境内の一角に不動堂が建てられ、そこに安置されている。鎌倉期の作といわれている。

像高 96cm の木像で、南洲寺に移されたときは像の前面に縦の割裂があり、剣、羂索などは失われており、左手や火炎にも傷があったが、現在は補修復元がなされている。

参考

不動明王は、五大明王の 1 つ。大日如来がいつさいの悪魔を降伏させるために化身して忿怒身になったもので、常に大火炎の中であって諸難やけがれを焼き、衆生を擁護するという。

像容は、普通は右手に利剣、左手に羂索を持ち、左を半眼にし、右を見開く。口は牙を右上と左下に出しているが、古くは二牙を同方向に出すものもある。岩座を台座にすることも多いが瑟瑟座に坐すものも見られる。わが国では、密教が盛んになった平安時代以後、衆生のさまざまな願望をかなえてくれるものとして広く信仰され、各地に不動尊がまつられた。